主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成
～結の橋Ｅプランの作成を通して～

宮古島市立伊良部島中学校　教諭　友利　芳江

はじめに

本研究は、平成３０年度（2018）宮古島市教育研究所の前期研究員として、伊良部島の小中４校の統合に向け、小中連携を通した英語教育の在り方を研究した報告書である。前期は、研究と検証実践を行い、研究終了後は、後期として位置づけ、統合前の勤務校佐良浜中に戻り、伊良部島内の小・中学校で連携実践研究を深めた。今年度（令和元年度 2019）は、統合した伊良部島中学校・伊良部島小学校（結の橋学園）で勤務し、効果的な小中連携した英語教育の継続実践を行っている。

Ⅰ　テーマ設定の理由

文部科学省の「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」では，小・中・高等学校が連携し，一貫した英語教育の充実・強化のための改善が求められている。その際，4 技能を活用して実際のコミュニケーションを行う言語活動を一層重視し，間違いを恐れず，積極的に英語を使おうとする態度を育成することと，英語を用いてコミュニケーションを図る体験を積むことが必要であるとしている。

校区内児童生徒の実態として，学年が上がるにつれ英語が好きと答える割合が少なくなっていることから，効果的なつなぎができていないことが要因であると考えられる。中学校で，話すこと以上に書くことを苦手とする生徒が多いことも，音声から文字へのつなぎが上手くできていないことが要因であると考えられる。また，小学校では，英語を話すことを苦手に感じる児童が約半数を占めており，さらに高学年では，約７割が英語を話すときに不安であると感じている。このことから，英語を用いてコミュニケーションを図る体験を積み重ねることで，間違いを恐れず，積極的に英語を使おうとする態度を育成する必要があると考えられる。幸い，小学校・中学校共に，話すことは苦手ではあるが１番伸ばしたい活動となっていることと，約８割の児童生徒が，ペア・グループ活動が好きで授業の理解に役に立つと感じていることから，ペア・グループでの効果的なコミュニケーション活動を多く取り入れ，不安なく英語で表現することができる児童生徒の育成を目指す。

平成３１年度に，伊良部島小中一貫教育校『結の橋学園』が開校を迎える。その柱の一つとなっているのが，小学校１年生からの英語教育である。各学年の特性，実態に合った指導内容を作成し，前期（小１～小４），中期（小５～中１），後期（中２～中３）と効果的な繋ぎが出来るよう，９年間を見通した英語教育のカリキュラムを作成する。

結の橋学園卒業時には，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を身につけさせたいとの理由から，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

主体的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成するために，９年間を見通した英語教育のカリキュラムを作成し，小学１年生から段階的・横断的な指導，ペアワークやグループワークなどの学習形態の工夫を実践的に研究する。

Ⅲ　研究仮説

結の橋学園における小中一貫した英語教育において，段階的・横断的な指導や学習形態を工夫すれば，主体的にコミュニケーションを図る資質・能力が身につくであろう。

Ⅳ　研究の全体構想図

・結の橋学園教育課程
　研究推進協議会（提言）
・四校統合協議会

〈結の橋学園教育目標〉
ふるさとに誇りを持ち　世界へはばたく
－賢い子(知)　優しい子(徳)　逞しい子(体)－

・児童生徒の実態
・保護者，地域の願い
・教師の願い

〈研究テーマ〉
主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成
～結の橋Ｅプランの作成を通して～

〈研究目標〉
主体的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成するために，９年間を見通した英語教育のカリキュラムを作成し，小学１年生から段階的・横断的な指導，ペアワークやグループワークなどの学習形態の工夫を実践的に研究する。

〈研究仮説〉
結の橋学園における小中一貫した英語教育において，段階的・横断的な指導や学習形態を工夫すれば，主体的にコミュニケーションを図る資質・能力が身につくであろう。

〈研究内容〉
１．学習指導要領，参考文献，各種資料などによる理論研究
　（１）小学校英語教育
　（２）中学校英語教育
　（３）伊良部島小中一貫教育校の英語教育について
２．結の橋Ｅプランの作成
　（１）英語全体計画の作成
　（２）英語単元系統配列一覧表（１学年～９学年）
　（３）小中学校年間指導計画
　（４）評価規準（Can-do リスト）
　（５）小学校低学年の指導内容及び指導計画
　（６）小学校教材の活用プラン

Ⅴ　研究内容

１　コミュニケーション能力について

新学習指導要領では，小学校の外国語活動の目標は「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成」であり，外国語科の目標は「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成」である。また，中学校外国語科の目標は「コミュニケーションを図る資質・能力の育成」であり，「コミュニケーション能力の育成」が大きな柱になっており，結の橋学園においても９年間を通して，「主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成」を図っていく。

（1）英語学習における、「主体的」の捉え方

「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」とは，単に授業等において積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず，学校教育外においても，生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度と捉えている。例えば，道で困っていそうな外国人を見かけると「Can I help you?」や「Do you need any help?」など，自ら外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てていきたいと考える。

（2）大まかな指導の流れ

１学年からの９年間の英語学習では，ペアやグループで英語を用いたやりとりをする場面を設定する。また，単元構成を各学年同じようにし，前学年の内容を繰り返し学習することで定着を図る。

【身に付けさせたい英語の力】

中学校卒業時の目指す生徒像

「目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりし、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒

（3）小中連携

① 連携に向けての共通認識

・小学校学習指導要領外国語活動・外国語編，中学校学習指導要領外国語編の指導目標，内容等の確認

・生徒の興味・関心や小学校での指導体制の把握

・結の橋学園卒業時の生徒像の共有

② 教材の連携

・小学校の教材を中学校でも使用，小学校でやったことが中学校英語につながっている。

小中教材連携　　中学校の単元に関連する小学校教材

学年	単元	内容	テキスト	P.	活動	歌詞
1年	Hi, English 1	あいさつ	Let's Try 1	8	Let's Sing 1	Hello, How are you?
		あいさつ	Let's Try 1	8	Let's Sing 2	Goodbye to you.
	Hi, English 3	数字	Let's Try 1	10	Let's Sing	1,2,3,4,5,6,7　1,2,3,4,5,6,7

③ 児童・生徒間の連携

・中学生による絵本の読み聞かせ

・中学校生活についての話　We can!2　Unit9　“Junior High School Life”

・小中合同授業や中学生をリトルティーチャーにした授業

④ 指導内容の連携

授業の始まりにペアやグループでの「Small Talk」を入れる。「Small Talk」を行う主な目的は，既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること，対話の続け方を

指導することの２点である。あるテーマのもと，５年生は指導者の話を聞くことを中心に，６年生はペアで伝え合うことを中心に行うとされている。結の橋学園では，低学年から毎時間の授業の初めに子ども同士のやり取りを中心に行い，９年間を通して英語でのコミュニケーション能力は上げたいと考える。

⑤ 教師の連携

・小中でお互いの授業を参観し合ったり，指導内容や指導方法について意見交換をしたりする。

・中学校英語教師による小学校での乗り入れ授業，中学校英語教師と小学校教師の中学校での TT

２ 結の橋学園Ｅプランについて

（1）英語活動単元指導計画

ア 低学年からの英語活動

学年	年間配当時数	充当教科・時数
第１学年	１２時間	生活科８時間　音楽２時間　図画工作２時間
第２学年	１５時間	生活科８時間　音楽２時間　図画工作２時間　体育３時間

※小中一貫教育を行う併設型小学校・中学校の教育課程の特例を適用

３ 評価について

外国語教育における学習評価については，中教審答申において次のように指摘されている。

○外国語活動

・「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」の３観点

・数値による評価にはなじまなく，文章の記述による評価を行うことが適当

・活動の観察やワークシートや作品等による評価が適切

○外国語科

・「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」の３観点

・数値による評価を適切に行うことが求められる。

・「聞くこと」及び「書くこと」と「読むこと」の文字に関する評価については，活動の観察，ワークシートや作品（ポスターやパンフレット）の分析，ペーパーテスト等の方法が考えられる。「話すこと」の評価については，活動の観察，パフォーマンス評価，授業内の発表等の方法が考えられる。

※評価については，国立教育政策研究所教育課程研究センターからの資料が出てからの検討

４ 検証授業

1　テーマ　色

2　本時の指導目標

①色の言い方に慣れ親しむ（外国語への慣れ親しみ）

②積極的に自分の欲しい色を伝え合おうとする（積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度）

3　言語材料

〇表現（児童の発話）　　Red, please.

〇語彙（児童が使う語彙）　色(yellow, brown, purple, green, red, gold, blue, black, white)

4　本時の指導案

時間	展　　開	留意点
導入 (13)	〇あいさつ 〇Let's Try 1 p.3 [Let's Chant] 〇Let's Read [Brown bear] 〇白黒の絵を見せて何色か聞く（パワポ） 児童が日本語で答えたら教師は英語で	●元気よく ●前回読んだ絵本をやり取りしながら読む ●アニメキャラやくだものなど，児童がよく知っているものが良い
展開 (27)	〇めあての確認　「色を英語で言ってみよう！」 〇色カードを見ながら練習 〇替え歌「ぐーちょきぱーで何作ろ」の曲で yellow, brown　yellow, brown purple, green　purple, green red, blue, gold　red, blue, gold black and white　black and white 〇Activity あいさつをしてじゃんけん。勝った人は，Red, please. と言って好きなカードをもらう 〇替え歌 [Let's Sing] 〇習った好きな色を塗り、塗った色を紹介する。 T: What do you see?” S: Blue.	●全員で声を出して読み，確認させる ●替え歌に出てくる色のカードを用意 ●教師が歌って聞かせる 最初はゆっくり（２～３回歌う） ●色カードを１人５枚ずつ持たせる カードがなくなったら教師にもらいにいく
まとめ	〇めあてが達成できたかどうか感想を発表させる 〇Let's Try 1 p.8 [Let's Sing 2]　Goodbye Song 〇あいさつ	

【授業後の考察】

〇低学年の児童が英語に興味をもっていることが分かった。

〇絵本の読み聞かせに対する反応が良かった。

〇間違いを恐れず、英語を使っていた。

❶色を塗る作業に時間がかかってしまい、授業時間がオーバーしてしまった。

❷低学年への指示の仕方に慣れていない。

❸次の活動へのつなぎがスムーズではなかった。

＜改善策＞

❶色を塗る用紙Ａ５サイズをＡ６サイズに活動時間を短くした。

❷担任の先生に細かい指示をしてもらった。

❸色を紹介するフラッシュカードに絵本のキャラクターを使用し，授業の流れを意識した。

※後日，改善した指導計画で伊良部小学校１年１組にて授業を行った

Ⅵ 前期研究実践のまとめ

１ 成果

・小学校と中学校の外国語教育の内容を比較検討することで，指導計画を系統的・横断的に作成することができた。

・佐良浜小学校、伊良部小学校の両校で授業をすることができ，実態を把握すると共に，指導計画を修正することができた。

・結の橋学園卒業後の生徒の姿を共有することで，各学年の学習到達目標を作成することができた。

２ 課題

・佐良浜小・中と伊良部小・中への情報の共有ができていないので，今後外国語部会を立ち上げる。

・小学校の担任と授業の打ち合わせ時間の確保

・小学校高学年用のパフォーマンステストの作成をしていく

Ⅶ 後期実践について（勤務校に戻って小・中連携の英語教育の研究）

１ 授業作りについて

（1） 小学校の授業作りの視点

① 前時までに学習した表現を使い，コミュニケーションをする場面を設定する。分からない語彙があれば，ジェスチャーを使ったり言い換えたりして，コミュニケーションを続けるよう指導する。

② 授業に活動を多く取り入れたり学習の場を移動したりすることで，児童が意欲的に参加することができる。

③ 正しい発音指導のため，デジタル教材を使用するだけでなく，中学校教諭にゆっくり発音してもらったり使用語彙の練習をしてもらったりする。

④ 授業内容に合う絵本がなければ「自作の絵本」を作成し，授業の最後に使用表現の確認として，一緒に音読したり質問などのやりとりをしたりする。

（2） 中学校の授業作りの視点

① 小学校の教材を活用することで，生徒が小学校で学んだことを思い出し，導入が容易になったり活動がスムーズになったりする。

② 小学校での学習内容を踏まえつつ，やり取りの場面設定を意識して活動を組み立てることで，生徒はこれまでに習得した知識や経験を活かし，コミュニケーションを行うことができる。活動の際，分からない語彙があれば，ジェスチャーを使ったり言い換えたりして，コミュニケーションを続けるよう指導する。

③ 小学校教諭と一緒に授業をすることで，英語に不慣れでも大丈夫であることを生徒に感じ取らせ，間違いを恐れず自信を持って授業に参加することができるようにする。

２ 実践授業① 宮古島市立佐良浜小学校 ５年生

1　単元名　Unit14　Who is your hero?　（『We can! 1』 Unit9）

2　単元目標

(1)自分があこがれたり尊敬したりする人について，自分の意見も含めて紹介し合おうとする。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

(2)第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しむ。また，文字を読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。（外国語への慣れ親しみ）

(3)英語と日本語では，書き方に違いがあることに気付く。

（言語や文化に関する気付き）

3　本時について

(1) 本時の目標　　得意なことを表す表現を知る。

(2)本時の展開（１／５）

時間	○展　　開	●留意点　◎評　価
導 入 (10)	○あいさつ ○ペアとあいさつをして，“Where is the pen?”のやりとりをする。 ○≪WC1-U9≫【Let’s Watch and Think】「映像を見て，わかったことを発表しよう。」	●元気よく ●デジタル教材が早いので，児童が困っているようなら教師が読む。
展 開 (30)	○めあての確認 「得意なことを表す表現を知ろう！」 ○使用表現の確認 ○≪WC1-U9≫【Let’s Watch and Think】「映像を見て，わかったことを□に書こう。」 ○使用表現の練習 ・I’m good at playing the piano. ○Let’s Talk（ペアで得意かどうか尋ね合う） ○≪WC1-U9≫【Let’s Listen1】「登場人物が何が得意かを聞いて，線で結ぼう。」 ○Let’s Read [I’m good at･･･] ○≪WC1-U9≫【Let’s Chant】”Who is your hero?“	●全員で声を出して読み，確認させる ●can との違いにも気付かせる。 ◎得意なことを表す表現に気付いている。<行動観察・振り返りカード点検>
まとめ	○本時の活動を振り返る。 ○あいさつ	

【授業後の考察】

○中学校の英語教師と一緒に指導をすることで，児童の理解度に応じた速さで教科書を読んだり，発音指導をしたりすることができた。

○色々な活動を取り入れることで，児童が飽きることなく授業に参加することができた。

○授業の内容に合わせた自作の絵本を用いることで，児童の興味を引くことができ，また，使用表現の振り返りをすることができた。

❶使用表現の難易度が高かったため，児童の理解を促すのに時間がかかった。

❷使用するフラッシュカードの数が多かったため，児童の負担が大きかった。

❸ペアだけの活動だったため，意欲を持続させることができなかった。

＜改善策＞

❶移行期の児童に合わせた教材・教具の工夫をする。

❷使用語彙を精選する。

❸ペアを変えて同じ表現を繰り返し使用し，表現の定着を図る。

3 実践授業② 宮古島市立佐良浜中学校 1年生

1 単元名 NEW HORIZON English Course 1 Unit 10「あこがれのボストン」（東京書籍）

2 単元の目標

(1) 間違うことを恐れず、コミュニケーション活動に取り組むことができる。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) できることやできないことについて話したり、尋ねたりすることができる。

【外国語表現の能力（話すこと）】

(3) can や can't を用いて、正しい文を書くことができる。

【外国語表現の能力（書くこと）】

3 本時の学習

(1) 目標

○間違うことを恐れず、コミュニケーション活動に取り組むことができる。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○Can you ~? を用いて、友だちにできるかどうかを質問することができる。

【外国語表現の能力（話すこと）】

(2) 本時の展開

<table>
<tr><th>時</th><th>指導過程</th><th>生徒の活動</th><th>教師の活動</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>挨拶
(8)</td><td>Greetings
Small Talk</td><td>・Small Talk
can, can't を使った会話</td><td>・Small Talkのモデルを見せる</td><td>※学習用具が揃っているか確認</td></tr>
<tr><td rowspan="3">導入
(7)</td><td>Who am I?
(Let's Chant OP2)</td><td>・Can you? の質問に慣れる</td><td>・クイズをしながらCan you ? を使って生徒に質問</td><td></td></tr>
<tr><td>Let's Chant
(Let's Chant ①)</td><td>・Chantに合わせて歌う</td><td>・リードしながら一緒に歌う</td><td>※Chantで音として定着</td></tr>
<tr><td>Today's goal
canを使って友だちに質問をし、その結果をみんなに伝えることができる</td><td>・評価カードに書き込む</td><td>・Today's goalを板書
・机間指導で生徒の様子を確認</td><td></td></tr>
<tr><td>展開</td><td>Pointing Game
（３人１組）</td><td>・ゲームで動詞の意味を確認</td><td></td><td>※意味が理解できているか留意</td></tr>
</table>

・活動 30	質問タイム	・Can you ~? を使いパートナーに質問 ・メモは取らない	・活動の前にモデル会話を見せる ・机間指導、支援を行う	※つまずきが見られる生徒を支援する
	友だち紹介	・can, can'tを使い質問の結果を紹介する	・Let's Chant(ｵﾌﾟｼｮﾝ4)で発表の仕方を確認する ・発表の前にモデルを見せる	※発表前にペアで確認作業
まとめ (5)	自己評価 Today's sentences	・授業のふり返り	・授業のまとめを行う ・Today's sentencesを提示	※ALTへの質問を考えることで、ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽﾃｽﾄへつなげる ※語順が理解できているか留意する
	Shuaib先生は絵が上手だけど、他には何ができるのかな？聞いてみよう！			
	Greetings	・Today's sentencesを書く ・終わりのあいさつ	・評価カードの回収 ・終わりのあいさつ	

【授業後の考察】

○ 小学校のチャンツや絵を用いることで、生徒は馴染みがあり取り組みやすい。

○ 小学校教師とのＴＴにより、英語に不慣れでも大丈夫であることを生徒が感じ取り，間違いを恐れず自信を持って授業に参加することができた。

○ 基本となる英語を繰り返し用いて活動させることで、定着を図ることができた。

❶ お互いに質問をするとき、内容が例文の範囲を超えていなかった。

❷ 友だち紹介のとき、声の大きさや発表態度などをきちんと指導すべきであった。

❸ ほとんどを中学校教諭が進めてしまい、小学校教師の授業への関わりが弱かった。

＜改善策＞

❶ 「例文以外のことで質問したいことを聞こう」など、教師の声かけがあれば、生徒は更に活発にやり取りができる。

❷ 教師のモデル発表の際、良い例と悪い例を見せ、生徒に考えさせる。

【指導助言】

琉球大学教育学部教授　大城賢

【アンケート調査協力者】

宮古島市立佐良浜小学校・伊良部小学校　３，４，５，６年生

宮古島市立佐良浜中学校・伊良部中学校　１，２，３年生

※この報告書は、宮古島市教育研究所での 2018 年度前期研究実践報告を簡略化したものである。